

11 November 2012

あかあ

第703号
平成24年11月1日発行
(毎月1日発行)

[広報] Public Relations SAMEGAWA



[CLOSE UP SAMEGAWA]

修明高等学校鮫川校 存続の危機2

鮫川校に 寄せる思い

表紙写真/鮫川小学校5年生稲刈り (10月16日)

あかあ
Public Relations SAMEGAWA

11 November 2012

平成24年11月1日発行 (毎月1日発行)
第703号 (昭和27年9月創刊)

発行/鮫川町鮫川村 編集/鮫川町農地企業部編集課
〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤十字新田 39 番地 5



結婚しました

Happy File_03 Wedding

根本 潔さん 彩さん

西山字岩野草在住/平成24年7月挙式

- 奥様の出身地はどちらですか? ... 鮫川村です。
- 2人が知り合ったきっかけは? ... 職員の新人研修をきっかけに親しくなりました。
- 出会ったときのお互いの第一印象は? ... (夫→妻) おっとりしている。(妻→夫) 真面目そうな人。
- 子どもは何人ほしいですか? ... 女の子が1人いますが、あと男の子2人ほしいですね。
- 理想の家庭は? ... 平和な家庭を築くことが理想です。

こちら 村長室

中での季節 秋の収穫の喜びが 村内の里山のあちこちから確認できるからです。この時期になると思い出す中国の唐の時代の詩「憫農」があります。▼「禾を鋤いて日午に当たる汗は滴る禾下の土 誰か知らん 盤中の粒 粒粒皆辛苦なるを」▼農民は 早朝から鋤をとって田畑を耕しているうちに正午になった。汗が滴り落ちて作物の根元の土に染みこんでいく。毎日食べているお椀の中のご飯の一粒一粒が皆農民の苦勞の結晶なのだという意味なのでしようか。▼農民の苦勞 農業の容易でない様子も感じ 感謝の念を抱いているのでしよう。私はまたこの詩から物事を成就するために 地道な努力をすることの大切さを教えられているように思うのです。今 村政をあげる者としての私の支えにもなっている言葉です。

大樂勝弘

鋤禾日当午 汗滴禾下土 誰知盤中粒 粒粒皆辛苦 ▼私は四季の